高校生・大学生の援助要請の利益・コストと被援助志向性との関連
—SNS と対面の比較—

人間福祉学科　福祉心理系　阿部祥子

相談支援において，困難に直面した時，他者へ援助を求めるからどうかについての認知的枠組みである被援助志向性を高めることが重要である。被援助志向性には援助要請の利益とコストの予期の影響が指摘されている。しかし利用頻度の増加が見込まれる SNS 相談についてはこれまで検討されていない。よって本研究は，対面場面と比較し，SNS を用いた援助要請の利益とコストの予期と被援助志向性との関連を明らかにすることを目的とし，高校生・大学生を対象に質問紙調査を行った。

結果から，SNS での相談援助を受けた経験の有無により，利益・コストの予期は異なること，対面と比較し SNS はポジティブな結果の予期が低く，否定的応答，秘密漏洩などのコストの予期が高いこと，SNS・対面ともに利益の予期が被援助志向性の向上につながることが明らかになった。また，テキストマイニングの結果から，SNS 相談は，匿名性，気軽さ，幅広い回答が得られること，対面相談は，信頼感，安心感があることがメリットとして挙げられた。よって，状況や相談内容，深刻度に応じて SNS 相談と対面相談の使い分けや組み合わせが可能であることが示唆され，今後，相談方法としての活用が期待できると考えられる。